21

第二特務艦隊機密第一七二号

大正六年六月二十七日

第二特務艦隊司令官佐藤皐蔵

海軍軍令部長男爵島村速雄殿

各班

大正六年六月十一日第十一駆逐隊第一小隊（松、榊）戦闘詳報

右進達ス

主査

委員

幹事

官房

海軍

0969

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大正六年六月十一日第十一驅逐隊第一小隊（松榊）戰闘詳報

（横地第十一驅逐隊司令提出）

一、形勢

六月九日以後無線電信及ミユドラス英官憲ヨリ得タル敵情左ノ如シ

敵潜水艇出現位置	出現時刻	記事
北緯三十六度四十八分 東経十六度十二分	九日午前四時	
北緯三十四度四十六分 東経十八度二十四分	九日午後四時	
北緯三十六度四十六分 東経二十一度十九分	十日午前五時	汽船「アンナントルピル」襲撃ヲ受ク
北緯三十七度十四分 東経九度五十一分	十日午前十一時	
北緯三十八度三十九分 東経二十四度四十八分	十日午後三時	
北緯三十五度五十五分 東経十八度〇分	十一日正午	

本小隊（松、榊）ハ馬太般港ノ目的ヲ以テ十日午前十時三十分潜水艇ニ對スル警戒配備ヲ完成シテミロ港ヲ出港午前十一時

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十三分港外北緯三十六度四十二分東経二十四度十九分ノ地点ニ到リ榊ヲ松ノ左側正横六百米突ノ位置ニ就カシメテ単横陣ヲ制リ磁針路南四十度西、定針シ速力十八節ニテアンチキセラ海峡ニ直航中午後一時三十二分北緯三十六度十五分東経二十三度五十分ノ地点ニ達シタル時榊ハ左舷側方ニ敵潜水艇ヲ発見シ戦闘開始

當時天候雲量一、二乃至三ノ北風吹キ海面少シク白波アリ且ツ太陽ニ向ヒシヲ以テ前面ノ展望ハ良好ナラス

二、航行計畫

(イ) 警戒法、第二特務艦機密第八八號ノ三驅逐隊警戒法標準ニ據ル

(ロ) 豫定航路

自 Milo 至 Malta 豫定航路表

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

地名	方位	距離	磁針路	航程	航程累計	記事
Port Milo						
			Ad regd	9.2	9.2	
Anti Milo 南端	WSW	3.5				
			S 40 W	76.0	85.2	
Anti Kithera (220米山)	綏正横	6.5				
			N 70 W	430.0	515.2	
			Ad regd	8.0	523.2	
Malta "B" 地点						

(ハ) 速力及隊形
速力、十八節
隊形、開距離六百米ノ順番號單横陣

(ニ) 「ジグザグ」航法　特別ノ場合ノ外之ヲ行ハス
但シ之ヲ必要トスル場合ハ信號ヲ以テ指令ス

(ホ) 敵潜水艇發見ノ際ニ於ケル處置
任務上支障ヲ來サル限リ極力之カ撃滅ニ努ム

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、經過

六月十一日
午后一・三二

磁針路南四十度西、速力十八節、間距離六百米ノ順番雛單横陣ニテ北緯三十六度十五分東經二十三度五十分ノ地點ニ達シタル時榊左舷側方ニ敵潜水艇潜望鏡ヲ發見シ直ニ戰闘開始榊前部旋回砲ノ一彈潜望鏡ニ極メテ近ク落下炸裂セリ之ト同時ニ榊左舷前部ニ敵魚雷命中爆發且ツ前部彈藥庫内ノ彈藥併發シタルタメ艦橋附近ヨリ前部悉ク粉碎飛散シ船体ハ少シク前方ニ傾斜シタル儘猶徐航ス

一・三三

松ハ直ニ総雛点大全速力戰闘ヲ命シ敵ヲ捜索撃滅スルノ目的ヲ以テ約千米突ノ距離ヲ隔テヽ榊ノ周圍ニ極メテ不規則ナル旋回運動ヲ開始ス

榊砲撃續行、松戰闘旗ヲ揭ク

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一一三五　松左戦闘、距離千米、榊ノ弾着ヲ照準シテ砲撃開始、榊停止ス

一一四〇　松敵潜水艇ノ航跡ラシキモノヲ認メ其ノ前方ニ出テ、右舷側爆雷ヲ投下ス
約二百米突後方ニ於テ爆發ス

一一四九　松砲撃中止

二一二一　南方ニ煤煙ヲ認ム榊ヨリ「魚雷命中」ノ信號アリ

二一三四　北方ニ煤煙ヲ認ム榊砲撃中止

二一五〇　英驅逐艦「Ribble」ニ東方ヨリ来航ス

二一五五　松ハ英驅逐艦「Ribble」ニ對シ「我夜ニ入リ榊ヲ曳航ス」ノ旗旒信號ヲナシ仝時ニ榊ニ「夜ニ入リテ曳航ス速力ハ出シ得サルヤ」ノ信號ヲナス
榊ヨリ「少シク速力ヲ出シ得」トノ返アリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二－五八	"Rifle"ニ榊ニ近ツキ停止シ短艇ヲ卸ス 松ハ之ニ向ッテ「我夜ニ入リテ榊ヲ曳航ス、汝ハ其ノ時我ヲ護衛スルヤ、今猶潜水艇附近ニアリ注意セヨ」トノ信號ヲ交ス
三－一〇	"Rifle"ハ短艇ヲ以テ榊ノ負傷者ヲ移乗セシメ且ツ榊ト曳索ヲトリテ曳航ヲ始ム 松速力ヲ少シク減シ榊ニ近ツク
三－一二	榊ヨリ「負傷者ハ英艦ニ送レ」トノ信號アリ
三－三四	榊ノ負傷者二名松ニ送リ来ル
三－三五	佛水雷艇「Ac」ニ英驅逐艦"Jed"ニ北方ヨリ来航ス
三－四五	松ヨリ榊ニ「看護手ヲ送ルヘキヤ」ノ信號ヲナセシニ「負傷者ハ全部送リタルヲ以テイラズ、艦長戰死、准士官全部戰死下士卒五十五名行衛不明」トノ返アリ
三－五〇	松ハ榊ノ右側前方護衛位置ニ就キ其ノ前方ニ「ジグザグ」

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

25

三一五五 航法ヲナシツツ進ム「Jed」ニ及「FC」ニハ後方護送位置ニ就ク
英軍艦「Partridge II」ニ及掃海船(Gazelle)一隻スダ湾方面ヨリ来航

四一二〇 「Partridge II」ニヨリ次ノ信號アリ『我被護衛船ノ左側前方ニ位置シ「ジグザグ」ヲナシテ進ム』

四一四五 榊ヨリ『本艦只今五浬ヲ出シ得、庄司大尉重傷、機関長負傷何レモ英國駆逐艦ニ送レリ、九時頃入港ノ豫定』トノ信號アリ

四一五〇 英駆逐艦ニ「Jed」ニ佛水雷艇「FC」ニ北方ニ引キ返ス

六一一五 榊ヨリ次ノ信號アリ『生存者ノ言ニ依レハ本艦左舷後方四点ニ「ペリスコープ」ヲ認メ同時ニ魚雷ノ航跡ヲ見、艦橋ヨリ射撃ノ命アリタルモ間ニ合ハス左舷前部ニ命中セリ其ノ後全周ヲ射撃セシモ何等ヲモ認メス、艦長負傷、英

17、

0976

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

驅逐艦ニ送レリ只今機関長死ストノ信號アリ艦長ハ未タ呼吸アルモ危シトノ事ナリ、曳船ヨリ請求アリタルニ付今夜艦尾燈ヲ出ス」

七－四〇　日沒ス

八－一〇　榊ノ曳索切断セシヲ以テ松ハ後方ニ引キ返シRibbleニ對シ「我榊ヲ曳航ス」トノ信號ヲナシテ曳航準備ヲナス

八－一八　榊ヨリ「鋼索切断、他ノワイヤ準備中」トノ信號アリ

八－二〇　榊ヨリ「曳航開始」トノ信號アリ

九－一〇　榊ノ後尾ニ位置シスーダ灣口ニ近ツク

一一－三七　戰闘配置ヲ撤ス、スーダ灣内ニ入ル

十二日
午前〇－一五　スーダ灣内錨地ニ近ツク

〇－三〇　負傷者ヲ英海軍病院ニ送ル

二－五〇　榊ヲ英工作船ニDalkeithニノ左舷ニ横附シ松ハ榊ノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ舷ニ横附ス

位置（Red mound. S85°W
Trisghe F.S. S.10°W）

三一〇　両艦総員ヲシテ戦死者屍体及破片取片付ニ着手ス

備考、時間ハ東部欧羅巴標準時ヲ用フ

四、成績

(一)砲撃及デップスチャージノ効果ニ就テハ確言シ難シ

(二)我カ損害ノ程度

松ニハ何等損害ナシ、榊ハ第一罐室前部隔壁ヨリ前部悉ク粉砕切断シ全ク原形ヲ止メス

(三)我カ死傷者数（榊ノミ）

戦死者　五十九名

重傷者　九名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軽傷者　六名

五、所見

(一) 両艦乗員ノ態度沈着ニシテ各其ノ職責ニ全力ヲ盡シタルモノト認ム

殊ニ榊ガ危険ニ瀕シツツモ生存セル乗員ガ負傷者ニ至ル迄能ク平静砲撃ニ従事セルハ帝國軍人トシテ恥ヂサル行為ナリト思考ス

(二) 英駆逐艦「Ribble」ノ敏捷、果敢ニシテ懇切ナル行為ハ實ニ歎賞ニ値スル處ノモノニシテ特ニ報告スルモノナリ

別紙榊駆逐艦長職務代理海軍大尉吉田庸光ノ報告ヲ併セ提出ス

終

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

21

驅逐艦榊損害調査表

損害ノ箇所	損害ノ程度
船体ノ部	
一、准士官室	天井タル上部甲板上方ニ吹キ上ケラレ前部隔壁亡失
二、重油「タンク」	一番「タンク」粉粋二、三番漏洩浸水
三、第三十三番「ビーム」ヨリ前部船体（海図室艦橋ヲ除ク）及艤装品全部	破壊亡失
四、海図室、艦橋探照燈台	爆勢ニテ全部第一煙突左側上甲板ニ上面ヲ上ニ甲板ト垂直ニシヤールライント艦尾方向ヨリ計リ約十度ノ交角ヲナス
五、上甲板	全面多少ノ凹凸ヲ生シ特ニ第百二十一番「ビーム」

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、第一通船（ダビット）　上甲板上面附近ハ約三十七粍ノ横向凹凸滿ヲ生ス
　　前部ハ約十度後方ニ屈曲使用不可能

七、後部火藥庫　右舷推進器軸附近僅少ノ浸水アリ（毎日約二升）

兵器ノ部

四十口徑安式四吋七砲　一門　亡失

武式四呎六吋測距儀　一組　亡失

三八式小銃　二五挺　内十二挺亡失十四挺破損

十八吋二聯裝水上發射管　發射管二門發射管台ト共ニ轉覆毀損

四式十八吋魚形水雷　二個　毀損

探照燈　七五糎手働装置　一台　亡失

備考

以上ハ亡失毀損等ノ重ナルモノノミヲ記載シタルモノナリ

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

28

第十一驅逐隊死傷表

區分／艦名	戰死 准士官以上	戰死 下士卒	重傷 准士官以上	重傷 下士卒	輕傷 准士官以上	輕傷 下士卒	記事
榊	五	五四	一	八	○	六	重傷者九名輕傷者二名ハスーダ英國海軍病院ニ部外依托ヲ為ス
合計	五	五四	一	八	○	六	

0982

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

29

第十一驅逐隊（榊）死傷者人名表

一、戰死者

配置	官職	氏名
一般	少佐	上原太一
	機関少佐	竹垣純信
前部砲台指揮	上等兵曹	酒見今朝一
全部分担指揮官	上等機関兵曹	吉田末廣
機械部補機部分担指揮官	仝	三浦滿夫
一番左舷発射管射手兼調整手	一等兵曹	境源藏
操舵員	仝	元村吉太郎
砲台下士	仝	坪田末太郎
前部旋回砲射手	二等兵曹	前田松雄

配置	官職	氏名
二番右舷発射管員	二等兵曹	松尾儀三郎
二番左舷発射管射手兼調整手	仝	小中野清一
信號員	仝	倉岡松太郎
操舵員	仝	末田良藏
前部旋回砲員	三等兵曹	大里八次郎
一番右舷発射管員	仝	日高武二
前部彈薬庫長	仝	前田正太郎
一番左舷発射管員	仝	長谷川正義
二番右舷発射管員	仝	竹内近男

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二番左舷発射管員	三等兵曹	松村又喜
右 仝	仝	笠屋真一
信號員	仝	清田正三
機砲員	仝	小野寺新三郎
射撃部附	一等水兵	尾崎種一
前部旋回砲員	仝	矢野留吉
四番三吋砲員	仝	栃原津次郎
三番三吋砲員	仝	濱田德次郎
一番三吋砲員	仝	鶴田大次
前部旋回砲員	仝	平元右衛門
二番三吋砲員	仝	井上貞
三番三吋砲員	仝	中山文造
四番三吋砲員	仝	瀬戸忠三郎
機砲員	一等水兵	松本茂
補機部発電機員	一等機関兵曹	山本時藏
第一缶部給水員	二等機関兵曹	山元藏次郎
第二缶部汽罐下士	仝	園部秋義
第二機械部運轉員	仝	中俣利助
第二機械部運轉兼燈火員	三等機関兵曹	折田富盛
第一缶部給油兼通風員	仝	黒木七五郎
第一機械部運轉員	仝	椛島市郎
第一缶部焚火員	仝	秋山啓次郎
補機部機関部電路員	仝	壹岐兼利
第三缶部給油兼通風員	仝	市丸増藏
第二缶部給油兼通風員	一等機関兵	上野正澄
第二機械部運轉兼應急作業員	仝	川上岩夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

配置	官職	氏名
第一缶部焚火員	一等機関兵	瀬助左門
第三缶部焚火員	仝	松枝靖次
第二缶部焚火員	仝	吉村萬蔵
第一機械部運転並甲板作業員	仝	野津吉勝
第一機械部機械室傳令兼倉庫員	仝	竹内善吉
第一缶部缶室傳令兼燈火員	二等機関兵	大窪庄蔵
第三缶部焚火員	仝	奥園初助
第三缶部缶室傳令兼燈火員	仝	園本新平

配置	官職	氏名
第二機械部運転並甲板作業員	二等機関兵	園田榮
補機部補機部傳令員	仝	桝添清
第三缶部缶室傳令兼燈火員	仝	吉田忠二
第二缶部焚火員	仝	坂村喜久馬
應急員	一等木工	中辻請
治療所員	一等看護	簑田伊三
前部焊業員飲給	一等主厨	花田戴雄

二、重傷者

配置	官職	氏名
砲火指揮	大尉	庄司彊一
一番右舷探射燈射手兼調整手	一等兵曹	藤野寛一
前部旋回砲員	一等水兵	校谷弥五
四番三吋砲射手	一等水兵	西田久米七郎
一番左舷探射燈員	仝	喜多代吉雄
機砲射手	仝	松林定二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

信號員	一等水兵	末次常太
第一機械部運転兼甲板作業員	二等機関兵	古賀徳治

三、軽傷者

第一機械部運轉下士	一等機関兵曹	江下傳吉
後部指揮兼供給員	三等筆記	鶴海八郎
後部指揮薬庫長	一等水兵	松永倉吉
第二機械部機械室傳令員	一等機関兵	眞名子作馬
第一機械部運轉員	一等機関兵	一瀬富貴三
補機部空気圧搾機員	二等機関兵	松田善吉
第一機械部運転兼燈火員	仝	磯嵜幸治郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

31

驅逐艦松兵器消耗表

品名＼區分	砲種 三吋	水雷	記事
彈藥	三		
「デップスチャージ」		一	

驅逐艦榊兵器消耗表

品目＼區分	砲種 四吋七	砲種 三吋	記事
	一八	一六六	

終

0987

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

32

機関部状況　（驅逐艦松ノ分）

一、機関ノ状態

(イ) 戦闘前

(一) 機関各部良態ニシテ全力戦闘ニ差支ナシ

(二) 速力 強速十八節 直進原速十二節

(三) 使用鑵数 一号缶（重） 二号缶（専） 二鑵

(四) 燃料現在高

重油 噸 九四、六

石炭（英）噸 六八、〇

(ロ) 戦闘中

(一) 機関各部良態ニシテ故障缺損ナシ

(二) 使用鑵数

午後一時三十二分柳敵潜水艇ノ雷撃ヲ受ケ戦闘状態ニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

移リテヨリ右表ノ如ク増加併用セリ

總鑵点火受令時刻　午後一一三二

点火時刻　三号鑵　一一四〇

　　　　　四号鑵　一一三四

併用時刻　五号鑵　二一〇四

　　　　　四号鑵　二一一二

備存第三号鑵ハ消火後五時間三分ヲ経過シ残汽罕所ヲ有シタリ

（三）經過

午後一一三二　全速二十節總鑵点火

一一三五　戰闘開始戰闘配置

二一一〇　強速二十二節

二一一三　全速二十二節

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

時刻	記事
三―三〇	原速十二節
三―三一	止メ榊ヨリ負傷者収容
三―三八	原速十二節二直配置
四―一三	強速十六節
四―三三	強速十四節
四―四八	強速十六節
六―四四	強速二十節氣ヲ附ケ戦闘配置
六―四七	強速十六節
六―五〇	二直配置
八―一五	止 英駆逐艦ノ榊曳航用綱切断ノ為メ
八―一五	原速十二節
八―三〇	半速九節
九―一〇	微速六節

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九四五 第一第二號鑵消火
二一三七 戰鬪要具收メ
（四）燃料（戰鬪終結時）
重油 噸 七九、六
石炭（英） 噸 六五〇

二、燃料及消耗品消耗費額
重油 噸 一五、〇 内部油 〇、三七
石炭（英） 噸 五、〇トモ 矢火用 外部油 五〇、〇七
糸屑 二梱
備考 午後一時三十五分戰鬪開始ヨリ午後十一時三十六分要具收メ迄ヲ通算ス

三、兵器消耗品 ナシ

四、損害

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

34

機関ナシ
兵器ナシ
船体ナシ

一、機関ノ状態（駆逐艦榊ノ分）
（イ）戦闘前
（一）機関各部良態ニシテ全力戦闘ニ差支ナシ
（二）速力十八節
（三）使用罐数 二号罐（専）三号罐（混）二罐
（四）燃料現在高（噸）重油九六〇 石炭（英）七六〇
（ロ）戦闘中
（ハ）経過
3 強速十八節ニテ航行中午後一時三十二分（六月十一日）速力通信

0992

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

器ヲ以テ全速ノ令アリ一瞬時ノ後爆聲及震動ヲ感ジ(四三四〇)
アリ隔壁ヨリ前方爆砕ノ為メ粉砕セラレタル機関ノ運轉ニハ
支障ナク全速(約二十節)ノ運轉ヲ継續中間モナク機械
停止ノ令ニ接シ直ニ運轉ヲ停止ス

一一三七 各部異状ナキ旨届出デアリ次デ一時機械ヲ使用
セズトノ命ニ接シタルヲ以テ一先ツ總員ヲ上甲板ニ集ス
使用中ノ二番重油「タンク」破壊ニ付八番重油「タンク」
ニ取換フ

一一四〇 第二号罐消火第三号罐一罐ヲ以テ各補助機械ノミ運轉
シ損傷程度ノ調査ニ着手ス殘餘ノ兵員ハ傷者
運搬並運轉ニ従事セシム

二一一〇 後進用意次デ後進微速(運轉ニ従事シ得ヘキ者
機械部七名罐部五名補機部一名ノミナリ)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

35

一一—二〇 損傷部調査ノ結果機関各部鉄損ト称スヘキモノナク各室防水完全ニシテ浸水ヲ認メス第一罐室前部隔壁一罐「ビーム」ニハ些ノ変形ヲ生セス前進等ノ行ヒ特別ノ水圧ヲ加ヘサル限リ堪ヘ得ルモノト認ム第一烟突ハ下部取付部ヨリ後方ニ轉倒シ一号罐使用困難ナルモ他ノ三罐並主機械使用差支ナシ後進ニテ自力運轉ヲ行フ事ヲ得

三—〇五 機械停止英國驅逐艦「リップル」来援曳航準備ニ着手ス

三—三四 曳航開始

三—三六 後進微速

三—三八 機械停止

四—二四 後進用意

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

〃—二七　後進微速

〃—三〇　後進原速（十八節、高圧滑弁函蒸気圧力ニ依リ管制以下仝上）

〃—三二　機械停止

〃—三三　後進半速（五節）

七—三五　後進原速（十節）

八—〇　機械停止（曳索切断）

八—二五　曳航開始

八—三九　後進半速（五節）

九—一二　機械停止

一一—三〇　スダ湾内ニ入ル

十二日
午前〇—二五　前進微速次テ停止

三—一〇　英海軍工作船「ダルホーレ」ニ横付

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

36

(二)燃料残高(噸)重油四五〇石炭(英)七〇、〇

六、燃料消耗品消費高

(一)燃料

重油(噸)四〇〇(外ニ六番重油「タンク」破損ノ為メ四七〇流失ス)

石炭(噸)六〇

(二)消耗品

内部油(立)〇、九

外部油(立)一五〇

糸 屑(瓩)五〇

掃除服(個)五〇　負傷者其他ニ供用

三、兵器消耗品

ナシ

四、損害程度並ニ亡失物

5

0996

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

別表ノ如シ

損害調査表（榊）

損害個所	損害ノ程度
船体ノ部	
一、重油タンク	一番タンク粉砕二、三番漏洩浸水
二、第二機関科倉庫昇降口扉	取付部破損（戦船ノ際）
三、各倉庫内棚	七個破損（爆発震動ノ為メ）
兵器ノ部	
一、電路及電灯	第一居室ヨリ前方ニ装備モノ全部及其ノ他ニ装備モノノ覆硝子八個電球六個倉庫ニ格納ノモノ覆硝子四個電球二個柵破損
二、「モーター」回転計並其ノ電灯	艦橋装備ノモノ三個及第一居室ヨリ前部ノ電路飛散ス
機関ノ部	
一、揚錨機械	飛散ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、左右ニ至ル蒸氣管及排出管	第一鑵室ヨリ前方ノモノ原形ヲ止メズ
三、医療用消毒器ニ至ル蒸氣管及排出管	揚錨機械ニ至ルモノヨリ分離セルモノニシテ原形ヲ止メズ
四、第一煙突	下部取付部鋲接手切断後方ニ轉倒
五、第一鑵室通風筒	前記煙突ノ重量ニヨリ開閉部壓潰
六、第三、二号鑵蒸氣槽管	仝右
七、第三号鑵主塞止弁々柄	震動ノ為弁開閉用歯車ト柄トノ取付部「ソツケト」脱離
八、一号鑵	炉内煉瓦一部剥落弛ミヲ生シ管取付部ニモ弛ミヲ生セルモノアリ
九、二号鑵	鑵管後半部、上部少シク外方ニ彎曲シ取付部弛ミヲ生シ輕度ノ水壓下降ヲ来セルモノノ如シ試験ヲ行ハザレバ使用危険ナリト認ム

備考

機関内部ハ分解検査ノ上ナラデハ判明セズ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

驅逐艦榊戰鬪詳報

大正六年六月十二日於クリート島スーダ灣

榊驅逐艦長職務代理海軍大尉 吉田庸光

第十一驅逐隊司令 横地錠二殿

一、形勢

當時二直哨兵ヲ配備シ艦長上原少佐、庄司大尉（哨戒長）酒見上等兵曹艦橋ニ在リ竹垣機關少佐亦艦橋ニ在リタルモノノ如シ山田機關少尉（當直機關將校）ハ機械室ヨリ罐室ニ至ラントシ上甲板右舷ニ在リ小官及其ノ他士官ハ士官室ニ准士官ハ准士官室ニ在リ天候快晴風向北、風力二乃至三海上和艦位北緯三十六度十五分東經二十三度五十分針路南四十度西速力十八節ナリ

二、經過

十一日午後一一三二　爆聲及激動ヲ感シ急遽艦橋ニ至ラントシ上甲板ニ出デタルニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

艦橋ヨリ前部ヲ認メズ艦長行衛不明庶司大尉亦斃レ居ルヲ見ルニ依テ三番砲台ニ於テ指揮ヲ取ル當時本艦ハ右舷ニ約三度傾斜シ右舷ニ回頭全速（二十節）航走ヲナシツヽアリシヲ以テ直ニ機械ノ停止ヲ命シ残存者ヲシテ四圍ノ見張ヲ嚴ニシ三番、四番砲ヲシテ附近海面ヲ掃射セシモ潜望鏡ラシキモノヲ認メズ而モ本艦ハ漸次傾斜ヲ増シ約四度ニ至リ稍々沈降ノ模様見エシヲ以テ機関部員ヲシテ重傷者ヲ右舷中部ニ運ビ第三通船ヲ半下シ之ニ収容セシム砲側應急弾薬ハ須臾ニシテ盡キントシタルヲ以テ後部弾薬庫ヨリ負傷者ヲモ使用シ供給セシム

犬塚中尉ハ前部破壊部ヲ視察シ無線電信室前方ヨリ艦首ニ至ル部ハ爆破亡失セルモ第一罐室前壁ハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一一四五 尚有効ナルモノヽ如ク浸水少量ナルヲ報ズ
三鑵及主機械使用差支ナシノ報ニ接ス依テ後部操舵装置ヲ使用シ後進ヲ以テ最近島影ニ向ヒ航行スルニ決シ之カ準備ニ着手ス當時操舵員全滅セルヲ以テ犬塚中尉機関部員ヲ指揮シ一時五十分舵機準備ヲ完成ス

二一一〇 後進微速航行ヲ開始ス

二一一〇 松ヘ「雷撃サレルモノノ如シ艦長戦死」ノ手旗信號ヲナス
信號部員三名中二名戦死一名重傷以下信号ハ總テ犬塚中尉之ヲ行フ二時二十分頃ニ至リ後部彈藥庫ヨリ装薬盡クノ報ニ接シ再度之ヲ調査セシニ三番四番砲ニ各約十発ヲ餘スノミナルヲ確ム

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二一三〇 射撃ヲ中止シ爾後ハ専ラ見張警戒ヲ嚴ニス是レヨリ先松ハ本艦四周ヲ航走シ敵潜水艇ノ発見ニ全力ヲ盡セルモノノ如シ

二一五五 松ハ前信號ヲ巨離稍々遠カリシ為メ了解セザルモノノ如カリシヲ以テ更ニ「雷撃サル艦長戦死」ノ手旗信號ヲ行フ松ヨリ「夜ニ至リ曳航ス速力ハ出デザルヤ」ノ手旗信號アリ之レニ對シ「少シノ速力ヲ出シ得」ト答フ

三一五〇 英驅逐艦「リツプル」来援本艦附近ニ漂泊少尉指揮ノ下ニ端艇三隻ヲ送リ来リ人員ノ移乗及曳航ヲ申シ出ツ依テ負傷者及當初ヨリ敏速勇敢ニ傷者ノ治療ニ従事セル有賀中軍醫ヲ移乗セシムルニ決ス蓋シ英驅逐艦ニハ軍醫官ノ乗組ナキ

8

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

40

ヲ以テナリ

三―三〇 「リツプル」ノ短艇又本艦「ギグ」第三通船ニ傷者ノ移乗ヲ終リ松ニ由リ負傷者ノミ英驅逐艦ニ送レリ」ノ信號ヲナス本艦残留負員ハ小官、大塚中尉荒木機関大尉山田機関少尉及水兵部負九名機関部員十三名ナリ

三―三四 出航ヲ開始ス松ニ由「出航開始」ノ信號ヲ行フ此ノ時重傷者三名ヲ乘セタル「ギグ」ハ未ダ「リツプル」ニ達セザリレヲ以テ松之ヲ收容ス英國海軍少尉エリヲツト及信號兵ウールコツクハ本艦ニ残留シ「リツプル」トノ交信ニ従事ス

三―三五 佛英驅逐艦各一隻来援松ト共ニ護衛ニ任ス

三―四〇 護衛艦ノミ「ジグザグ」航法ヲ行フ

9

1003

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三−四五　松ヨリ「看護手ヲ送ルヘキヤ」ノ信號ニ接シ「負傷者全部送リタルヲ以テイラズ」艦長戦死准士官全部戦死下士卒約五十五名行衛不明」ノ信號ヲ行フ

四−二四　後進用意ヲ令ス

四−三〇　十節ニ対スル後進回轉ヲ令ス

四−三三　五節ニ対スル後進回轉ヲ令ス

四−四五　松ヘ「只今本艦回轉五節庄司大尉重傷機関長負傷何レモ英驅逐艦ニ在リ九時頃入港ノ由」ノ信號ヲ行フ

六−五　「リツブル」ヨリ「機関長死去艦長危篤ノ貴艦軍医官ノ報ヲ傳フルヲ遺憾トス」ノ信號アリ

六−一五　生存者ノ言ヲ綜合シ次ノ信號ヲ松ニ送ル「生存者ノ言ニ依レバ本艦左舷艉四点ニ潜望鏡ヲ認メ仝時ニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

41

魚雷ノ航跡ヲ見艦橋ヨリ射撃ノ令アリタルモ間ニ合ハズ左舷~~[illegible]~~部ニ命中セリ其ノ後艦ノ全周ヲ射撃セルモ何ヲモ認メズ艦長負傷英驅逐艦ニ在リ只今機関長死ス艦長危篤ノ信號アリ旨初メ艦長行衛不明戦死ヲ信セシモ「リッブル」号ヨリノ信號及下士卒ノ中艦長ヲ通船中ニ認メタリト言フモノアリシヲ以テ本信號ヲナセリ

六－二〇 「リッブル」号ヨリ「夜間貴艦行進方向ヲ知ルタメ貴艦々尾燈ヲ出サレタシ」ノ信號アリ依テ應急艦尾燈ヲ假設シ仝時ニ發光信號燈ノ假製ヲ命ス

六－四五 「リッブル」号ニ負傷者数ヲ確ムル為メ問合セタルニ負傷者十三名内一名死去軍醫官一、助手二ナリ旨ノ答ニ接ス(助手トアルハ原口一主、一ノ瀬一機(軽傷))

七－一〇 「リッブル」ニ庄司大尉ノ容態ヲ問合セタルニ「稍々良好

10

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ナリヤ未ダ人事不省ナリノ答ヲ得

七―一六 「ゲツケアーカ」艦出港準備ヲナス

七―一〇 「リツプル」ヨリ問合セアリタルニ付本艦及松ノ艦名ヲ
通知ス

七―三五 本艦十五節ニ対スル回轉ヲ為シ得ル旨「リツプル」ニ通
知シタルニ速カ入港ヲ要求セシヲ以テ十節ニ対スル後
進回轉ヲ命ス

八―一〇 曳索切断セシヲ以テ本艦ニテ鋼索ヲ準備ス

八―一八 松ヘ鋼索切断他ノ「ツイヤ」準備中ナリノ信號
ヲ行フ

八―二〇 再ビ曳航ヲ始ム松ニテ曳航開始ナリヲ信號ス

八―三九 五節ノ後進回轉ヲ令ス

九―一二 「リツプル」ノ請求ニ依リ主機械ヲ停止シ且本艦操

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

42

舵ヲ止ム、曳航速力約六節

一〇一五〇「リツプル」ヨリノ落下水雷（デプスチヤージ）安全装置ニナシアルヤ否ノ問ニ接シ然ル旨ヲ答フ

一一一三〇「スーダ」湾口防材ヲ通過入港ス

十二月午前一三〇〇曳船ニ依リ英海軍工作船「ダルケーレ」山ニ横附ヲ終ル

所見

雷撃當時前部ニ在リシ當直員ハ殆ント戦死セシヲ以テ明カニ當時ノ情況ヲ確知スル能ハサルモ生存者ノ言ヲ綜合スルニ敵潜水艇ハ左舷正横二〇〇米附近ニ潜望鏡ヲ現ハシタルヲ以テ艦橋ヨリ射撃ノ令アリ前部旋回砲ハ直ニ之ヲ射撃シ一弾之ニ極メテ近ク落下炸裂之ヲ破壊セシモノノ如カリシモ魚雷ノ航跡ハ既ニ至近ニ迫リ居タリ之ヨリ先艦橋ニ於テハ全速面舵ヲ令シ之カ回避ヲ企圖セシハ機械室通信器ノ指示並ニ後部操舵装置ニ変換ノ際

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ舵柄ノ位置（當時面舵十五度ニテ停止シ居タリ）ニ依リ明瞭ナルモ距離至近ナリシヲ以テ不幸其ノ効ナク魚雷ハ前部旋回砲附近水面下ニ命中前部彈藥庫亦誘発サレシモノヽ如ク旋回砲ハ其ノ影ヲ止メス艦橋ハ海圖室ト共ニ左舷後方ニ吹キ上ケラレ電信室上ヲ覆ヒ前部上甲板ハ船底ニ至ル迄爆散セ失船体ハ爆発ニテ瞬間左舷ニ約十度傾斜シ船体ノ破片及死傷者中部甲板ニ充満セリ

斯ノ情況ヲ目撃セル乗員ノ本艦ノ沈没ハ免レ能ハザルヲ直覺セルハ小官ノ疑ヲ入レサル所ナル、然モ一同命令ノ遂行ニハ全力ヲ傾注シ其ノ態度沈着動作極メテ勇敢、大塚中尉ハ直ニ重要秘密書類ヲ整理シ迅速ニ損所ヲ検査シ自ラ艦外通信ニ當リ且ツ勇敢ナル動作ヲ以テ艦内全般ノ作業ヲ指導セリ荒木機関大尉ハ周到ナル注意ト歎賞スヘキ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

沈着ヲ以テ機関部全般ノ指揮ニ當リ山田機関少尉ハ勇敢ナル動作ヲ以テ卒先範ヲ部下ニ示シ有賀中軍醫ハ最モ機敏ニ多数ノ重傷者ヲ處理セリ

日高三等兵曹ハ雷撃ト同時ニ直ニ後部ニ至リ艦長室ニ在ル御勅諭ヲ取出セリ、江下一等機関兵曹ハ足部負傷ノ為メ歩行甚ダ困難ナルニモ拘ラス勇ヲ鼓シ苦痛ヲ忍ビ配置ニ就ケリ其ノ際負傷者ノ移乗ヲ命セル際ノ如キモ自ラ移乗セントスルモノナク自己ノ負傷ヲ省ミス重傷者ノ移乗ニ従事シ各指命セラレテ後始メテ移乗退艦セリ

斯クノ如キヲ以テ艦内些ノ混雑ナク士気甚ダ旺盛ニシテ困難ナル作業ヲ僅少ナル人員ヲ以テ迅速ニ進捗セシムルコトヲ得タルハ小官ノ最モ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ

尚本艦ニ来援セル英国海軍少尉 エリオット ハ勇敢敏捷ニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

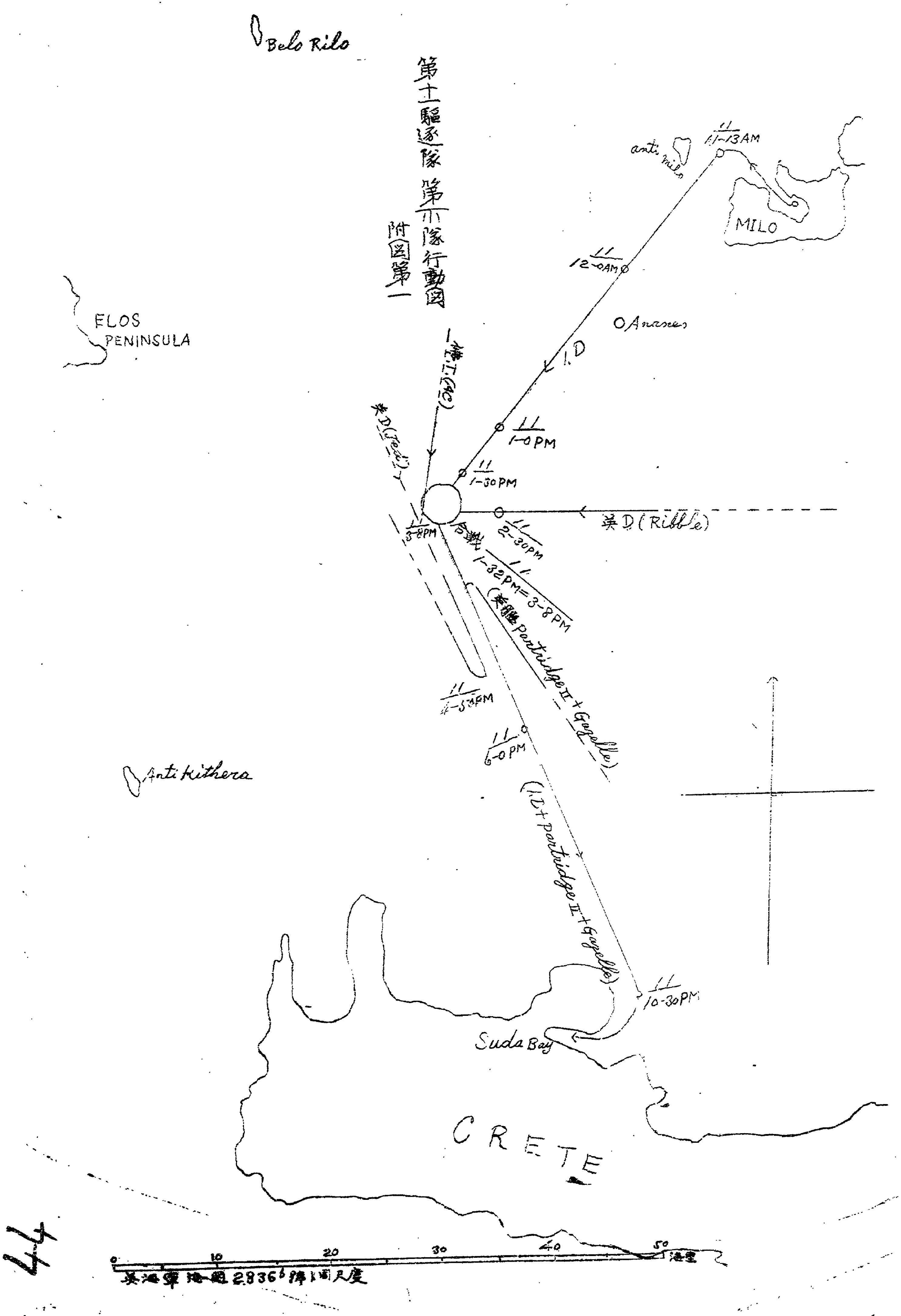
負傷者ノ移乗ヲ援助シ且ツ「リツプル」トノ交信ニ任ジ困難ナル曳航作業ニ多大ノ援助ヲ與ヘタルハ小官ノ特記セントスル所ノモノタリ

終リニ當リ故上原海軍少佐以下五十八名ノ英霊ニ対シ一同ヲ代表シ謹ンデ敬哀ノ意ヲ表スルモノナリ

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1011



44

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分 割 撮 影 タ ー ゲ ッ ト

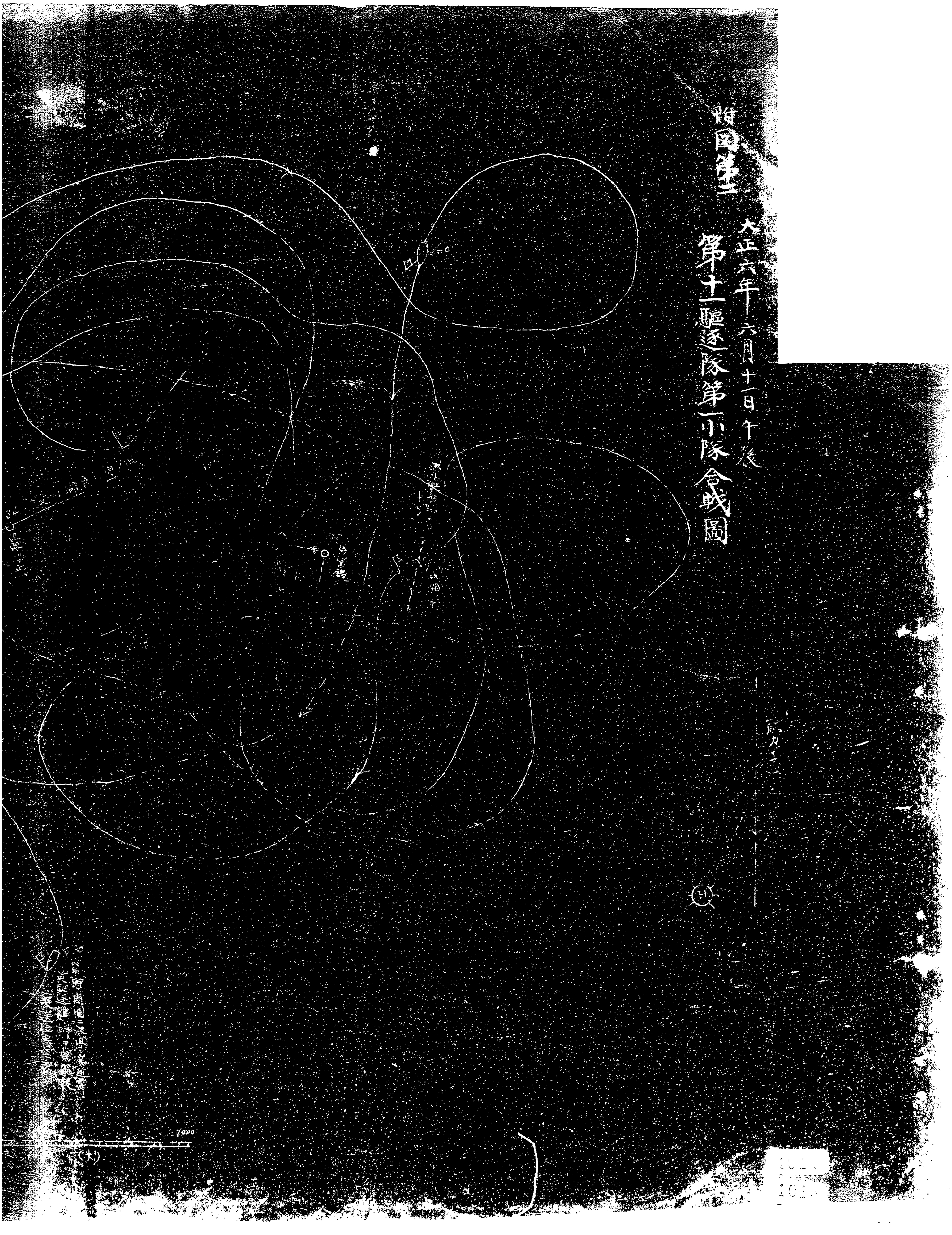
分割した 部分の 撮影順序	1 2
分割撮影 した理由	Ａ３版以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附図第三

大正六年六月十一日午後

第十一驅逐隊第二小隊合戦圖



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1014

COPY.

TORPEDOING OF H.I.J.M.S. "Sakaki".

H.M.S."Theseus", 16th June 1917.

No. RP. 17/42.

Sir,

I have the honour to forward the following report:-

At 1330 on 11th. June an S.O.S was received from the Japanese destroyer "Sakaki". H.M.S. "Chelmer" was at once sent to her assistance and shortly afterwards signals were received from "Ribble","Jed" and "PartridgeII" who were in the vicinity, bound south to the effect that they were also proceeding to"Sakaki". At 1600 "ribble" reported that she had "Sakaki" in tow with "Jed", "Matsu" and a French T.B. in company. On "PartridgeII" joining up ~~with~~ with convoy I ordered "Chelmer" and "Jed" to proceed to meet "Osmanieh" and "Gazelle" to join up and assist escorting "Sakaki" to Suda.

The tow parted out side Suda, but the shipwas brought in safety by 2340. Tug "John Payne" with Lieut. Commander Borrisow R.N.R. in charge was secured alongside her and she was towed to "Dalkeith" and secured.

Meanwhile, the wounded were being removed from "Ribble" to the sick quarters and "Theseus", the total number on board her being one dead and sixteen wounded, one of whom subsequently died.

On Tuesday 12th. June the bodies were removed from the wreck(estimated number55) and cremated in the arsenal, small boxes being made on board "Thesus" in which the ashes will be sent to Japan.

The whole of the fore part of the ship as far as the foremost stockhold bulkhead (which is practically intact) has been blown away. The forecastle deck is turned back wrecking the whole forebridge and foremost funnel.

The foremost gun and searchlight have disappeared. The torpedo tubes have remained on the racer but are nearly upside down and covered with bent and torn plating. The head of one torpedo being clear of wreckage the pistol was at once removed, but as far as could be seen the pistol of the second was so damaged as to appear as ifthe striker must be very close to the detonator. Consequently on the 13th. June(after conferring with the Commanding Officer of the "Matsu") "Sakaki" was shifted down the harbour while the work of removing was carried out. Assistance was offered by H.M.Ships but the Japanese preferred to work alone.

On the 114th, June "Sakaki" was replaced alongsile "Dalkeith" and the acetylene plant removed from "Huntsend". The work of cutting away wreckage commenced on 16th. June and it is estimated that this will take from 10 days to a fortnight. "Ribble"'s report is attached.

1013

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient Servant.

Signed... A.K. Macrorie.
Captain and Senior Officer,
1st Detached Squadron.

The Vice Admiral Commanding,

Eastern Mediterranen Squadron.

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

[illegible]

No. [illegible]

Sir,

I have the honour to report the following reports:-

At 1330 on 11th. [illegible] received from the Japs [illegible]

[illegible]

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient servant,

(Signed) A.G. [illegible]
Captain and Senior Officer,
[illegible]

The Vice Admiral Commanding,

[illegible]

1015

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1016

C O P Y.

H.M.S. "Ribble", 13th, June 1917.

Sir,

I have the honour to report that on Monday 11th, June at 2 p.m. when in position Lat. 35.59 N., Long. 24.10 E., on passage from Salamis to Suda Bay, an S.O.S. signal was received from H.I.J.M.S. "Sakaki" then in Lat. 36.15 N., Long. 23.51 E., distance from "Ribble" 25 miles.

I proceeded to her assistance at full speed arriving 2.55 p.m. when I came across "Sakaki" stopped, her bow completely wrecked by the explosion of a torpedo fired by the enemy submarine, and with H.I.J.M.S. "Matsu" steaming round her at a high speed in order to prevent a second attack.

As it seemed probable to me the "Sakaki" might sink or if she remained in that position she might be torpedoed a second time, I closed her lowered my three boats, and sent them over in charge of the First Lieutenant with instructions to send all "Sakaki"'s wounded to "Ribble" and prepare to be taken in tow stern first.

These instructions he carried out in a most expeditious and effecient manner. I judged, with the "Matsu" standing by us and screening us at a high speed that if I could tow "Sakaki" for an hour the probability of a second attack would be considerably diminished.

At 3.5 p.m. I proceeded alongside "Sakaki" preparatory to taking her in tow and by 3.10 she was secured astern and her wounded being passed into "Ribble"'s boats. At 3.30 we had their wounded, numbering 14 on board accompanied by their own Doctor and two assistants. Our boats were hoisted at the same time and we proceeded to tow "Sakaki" stern first towards Suda Bay, a distance of 53 miles, screened by H.I.J.M.S. "Matsu" a French destroyer "A.C." and H.M.S. "Jed", the last two ships having arrived at 3.25 p.m. At 4 p.m. H.M. Armed Boarding Steamer "Partridge II" arrived and at 6.30 p.m. the Fleet Messenger "Gazelle" joined escort. Once clear of the submarine area, "Jed", the French T.B.D. and "Partridge II" proceeded, the "Matsu" and "Gazelle" remaining with "Ribble" and "Sakaki".

At 8.5 p.m. the towing wire parted, but by 8.30 p.m. we again had "Sakaki" in tow, using her wire, and at 11.25 p.m. arrived at Suda Boom Defence, anchoring at 0.30 a.m. on the 12th.

On arrival the wounded were transferred to the Hospital Boat and the Salvage Tug took over the "Sakaki".

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient Servant,

Signed...H.P. Kesley,

Lieutenant, R.N.

1017

The Senior Officer,

1st Detached Squadron.

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

47

1017

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp